

ノルウェー産業科学技術研究所及びノルウェーエネルギー技術研究所との包括的研究協力協定の調印

報告

1月16日にノルウェー産業科学技術研究所 (SINTEF) の Unni M. Steinsmo 総裁と、ノルウェーエネルギー技術研究所 (IFE) の Kjell H. Bendiksen 総裁が来日し、産総研つくばセンターを訪問するとともに吉川理事長と会談し、各々の研究機関と包括的研究協力協定の署名がなされました。昨年9月にはノルウェー科学技術大学 (NTNU) との包括的研究協力協定を締結しており、今回の調印によって、ノルウェーの主要な研究機関との連携が一層深められ



ることとなりました。

SINTEF は、約1800人の職員を有し、幅広く産業科学技術の研究開発活動を行っています。IFE は約500名の職員を有し、原子力を含むエネルギー技術に関する研究を行っています。両機関とも、ノルウェー国内に限らず、国外との研究協力にも積極的で、企業などとの研究契約を結ぶことにより研究資金の獲得を含め産学官連携を促進しています。

産総研とこれらの機関との研究の連携状況としては、環境エネルギー分野が主体となり、SINTEF とは再生可能エネルギーを含むローカルな電気・熱・燃料のエネルギー供給システムの最適化などについて、また IFE とは新規水素貯蔵物質の開発と評価、自然エネルギーの水素による貯蔵システムの開発



左から、Bendiksen IFE 総裁、吉川理事長、Steinsmo SINTEF 総裁

などでの協力を行い、関連の共同ワークショップの開催も行っています。

両者との会合においては、環境エネルギー分野での研究協力をさらに進展させつつ、今後、バイオテクノロジーや、ナノテクノロジーなど材料研究の分野でも、協力の可能性を積極的に探っていくこととしています。

首都圏地震シンポジウムを開催

報告

2月15日、秋葉原ダイビル・コンベンションホールにおいて、「関東平野の地震を考える」と題された首都圏地震シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、産総研の研究者自らが地震研究の最新情報を一般の方々と共有することで、産総研の社会基盤研究の考え方を広く紹介しようとしたものです。

日本の人口のおよそ3分の1もの人々が居住する関東平野の地震と防災に対する関心は年々大きなものになっています。関東平野の地質構造を正しく把

握し、過去にそこで起きた地震を知ることや、これから起こりうる地震を考えることが必要です。

今回のシンポジウムでは、まず「関東平野の地下のプレート構造と地震」「首都圏の活断層」の2つの講演で関東平野の地下構造と地震の関係が語られ、続いて地震が起こった際の被害についての講演が行われました。「首都圏の海溝型地震と津波」では過去に起こった津波の頻度と将来予測について、「関東大震災とその教訓」では、耐震性と火災などを中心に、より防災にスポットを当てたテーマとなりました。

休憩をはさんで、今度は地震による揺れ方をテーマに「関東平野の基盤構造の成り立ちと地震防災」、「首都圏を襲う大地震とその強い揺れ」、「首都圏の浅い地盤の生い立ちと揺れやすさ」という3つの講演がありました。首都圏の深い地盤、浅い地盤について、そ



れぞれの揺れとの関係などについてや高密度観測データとシミュレーション結果をCG動画と組み合わせたわかりやすい内容のものでした。

最後の総合討論では、来場者の皆さんから地震に関連したさまざまな質問が投げかけられ、短い時間ではありましたが壇上の講演者との交流がなされました。



ナノテクディベート ―とことん話そう予防原則― 開催

報告

2月1日、東京国際フォーラムにおいて「ナノテクディベート ―とことん話そう予防原則―」を開催しました。

討論会においては、モデレータにリスクコミュニケーションの専門家であり、国内外で幅広い活躍をされている西澤真理子氏(リテラジャパン代表)を迎え、ナノテクノロジーに係る関係者を中心に関係省庁・公的研究機関・大学・民間事業者・NPOなどから35名が参加しました。

現在、ナノ粒子の化粧品などを中心とした市場化に伴い、国内ではナノ化粧品の安全性の問題が取り上げられ製

品の市場からの一時的引き上げの要請もされています。このような状況のなか、“Public Engagement(国民の関与)”への取り組みを実行に移していくために、まず切り離せない予防原則について議論を行ないました。

議論を始めるにあたりモデレータの西澤氏から「予防原則の理想と現実」と題して話をいただきました。

ディベートでは活発な意見交換が行われ、日本や欧米の状況、環境や医療の分野における予防原則的な取り組み、コストベネフィットの問題などさまざまな視点により議論が行われました。また、一般の人が理解を深めていくため、中長期的な視点で活動を継続的に行っていく仕組み作りが必要であるとのコメントがありました。

予防原則は、受け手によって受け取り方が多様であいまいなものがあります。関係者各々が共通認識として理解できるよう、予防原則に対する定義付けを行う必要があります。そして、民



ディベートの様子

間事業者がもっとこのような活動に参画し、それぞれの目線で話を行なえる場を設定することが必要であると感じました。

産総研は、“Public Engagement”へ向け、今回の活動の報告書を作成し、ホームページなどを通じて広く公開していきます。そして、討論会を継続的に実施することにより、関係者とともにナノテクノロジーの社会受容促進に向け更に前進を続けていきます。



司会を務める関谷氏

「ナノテクノロジーの将来像と社会への普及に関するシンポジウム」を開催

報告

産総研は、みずほ情報総研株式会社と共催で2月5日に「ナノテクノロジーの将来像と社会への普及に関するシンポジウム」を開催しました。

週刊ナノテクの甕秀樹氏、産総研からは水谷亘、阿多誠文の両氏、筑波大学の小林信一氏による講演と、ナノテクノロジービジネス推進協議会の亘理誠夫氏も参加して、企業・大学・研究機関などからの100名を超える参加者とのパネル形式による討論を行ないました。

高機能化粧品などをはじめとして、ナノテクノロジーをうたう製品は店頭で数多く見かけるようになっていきます。しかし、第3期科学技術基本計画に取り上げられている True Nano と

言えるようなナノレベルでの物性変化を活かした製品はまだ見当たりません。このような状況のなかでナノテクノロジーの社会受容を進めるためにどのようにナノテクノロジーによる将来像を描き、また克服すべき課題への理解を深めるかをテーマとして講演と討論を進めました。

講演と討論からは、企業の側にある技術の出口がよく見えないという不満感が市場化の障害の一つになっており、その枷を外して高い可能性を秘めたナノテクノロジーの基礎研究を市場へと繋げるためにも情報の発信や、技術を市場に受け入れられやすくするための工夫が重要だということが見えてきました。また、技術を受け入れる側

である社会に存在する「新しい技術に対する漠然とした不安感」への対応も市場化を進めていく上で必ず取り組まなくてはいけない課題であり、非専門家を含めたコミュニケーションにもより一層の工夫と努力が必要であると認められました。



パネルディスカッションの様子

男女共同参画シンポジウムを開催

2月14日に、産総研臨海副都心センターにおいて、産総研男女共同参画シンポジウム「イノベーション創出とダイバーシティー男女共同参画実践の立場からの提言」が開催されました。これは、平成18年1月に策定された「産総研男女共同参画の推進策」のアクションプランの1つであり、産総研男女共同参画室が主催したものです。当日はあいにくの悪天候で参加者の出足が心配されましたが、産総研内外から多数の方が参集しました。



シンポジウムでは、イノベーション創出とダイバーシティー（多様性の受容）について、男女共同参画実践の立場から討議が行われました。まず開会の挨拶として、高市早苗 男女共同参画・イノベーション特命担当大臣から本シンポジウムに宛てられたメッセージを澤田美智子 産総研男女共同参画室室長が代読しました。続いて吉川産総研理事長による基調講演「私たちにとって必要なイノベーション」がありました。また板東久美子 内閣府男女共同参画局長による特別講演「多様な人材が活きる社会・組織へー男女共同参画とイノベーションー」では我が国の男女共同参画の現状などのお話があり、山極清子(株)資生堂人事部次長による基調講演「資生堂の男女共同参画への取り組みー女性リーダー育成・登用とワーク・ライフ・バランスの実

現に向けてー」では企業における男女共同参画の取り組みの紹介がありました。

コーヒープレイクを挟み、山極清子氏を座長として、遠山嘉一 日本女子大学大学院客員教授 女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室長、木原裕子(株)野村総合研究所経営コンサルティング部コンサルタント、小玉産総研副理事長、山下樹里 産総研人間福祉医工学研究部門操作スキル研究グループ長によるパネルディスカッションが行われ、イノベーション創出における男女共同参画室とダイバーシティーの必要性について討論がなされました。シンポジウムの後には交流会が開催され、活発な議論が交わされました。

TXテクノロジー・ショーケース・イン・ツクバ2007

つくばサイエンス・アカデミー主催による「TXテクノロジー・ショーケース・イン・ツクバ2007（第6回つくばテクノロジー・ショーケース）」が、TX開通後初めてつくばで開催される研究展示会として、サブテーマ「科学技術の産直フリーマーケット<つくば研究祭>」を掲げ、1月30日に開催されました。

去年は、つくばエクスプレス（TX）の開通に合わせ秋葉原で開催されましたが、今年はつくば国際会議場において、従来から行われているポスター発表の他に、研究祭・企画展示、研究祭・ミニシンポ、イブニング・セミナーが特別企画として盛り込まれました。参加者も年々増加しており、今年は900名を超える来場者がありました。

ポスターによる研究成果の発表は、ライフサイエンス、物質・材料、情報通信技術、環境、防災、地球・宇宙の

分野に分かれ、76件出展されました。午前中にはポスター発表に先駆けてインデクシング発表が行われ、研究者が次々と、1分間という限られた持ち時間の中で自らの研究成果を懸命にアピールしていました。産総研からも、防災を除く各分野で計16件の発表を行いました。

研究祭・企画展示会場には、環境、エネルギー問題の解決に向けた農学分野からのアプローチや、陸地観測衛星データの利用と展望など4テーマについて、展示ブースが設置されました。産総研はこれの中で「地球観測グリッド（GEO Grid）ーつくば発のイノベーション」のコーナーを設け、ブース内でプレゼンテーションや大画面を用いたデモンストレーションを行いました。

さらに、研究祭・ミニシンポにおいては、小玉副理事長より「産総研のイノベーション戦略」についての取り組

み、関口グリッド研究センター長より「地球観測グリッド（GEO Grid）の目指すもの」について話題提供がありました。

イブニング・セミナーでは、江崎玲於奈つくばサイエンス・アカデミー理事長のご挨拶につづき、前内閣府・総合科学技術会議議員の柘植綾夫氏による「科学技術が担う国づくりーつくばへの期待」と題した講演が行われ、つくばに拠点を置く研究機関への期待を込めたメッセージが語られました。



企画展示会場での産総研 GEO Grid ブースの様子

報告

第2回産総研サイエンスカフェを開催

12月22日、第2回産総研サイエンスカフェ「自然の力で環境を守る－光触媒のお話－」を開催しました。

話題提供は環境管理技術研究部門の竹内浩士主幹研究員で、同じ研究グループの根岸信彰主任研究員がサポートにあたりました。今回は会場が喫茶店だったこともあり、終始和やかな雰囲気で行いました。参加された方々



は光触媒の原理や効果、応用例などの説明に熱心に聞き入っている様子でした。話の合間には、光触媒作用をもつ物質である二酸化チタンの粉末や光触媒コーティングされたブロックなどの実物の紹介と実演を行い、参加者は興味深げに実物を手にとって眺めたり、実演を覗き込んでいました。その後の質疑応答では、興味が尽きない大勢の方から次々と質問が出されました。核心をついた質問も多数あり、参加者の関心の高さがうかがえました。

終了後、竹内主幹研究員からは「普段専門家と話をしてもあまり質問が出ないことが多いが、今回このようにた

くさんの質問が出たのは予想外で、とてもよかった。」「今後も一般向けに話すときには、興味を持ってもらえるよう工夫することが必要だと感じた。」との感想が聞かれました。

また、アンケート結果は第1回と同様に大変好評で、「講師の説明がとても分かりやすく良かった。」という感想を多くいただきました。これは、参加者の反応を見ながら丁寧に話を進めていったことが要因と思われます。

4月には第3回サイエンスカフェ「ナノテクノロジーの来し方行く末」の開催を予定しています。ご興味を持たれた方は是非ご参加ください。

新役員の紹介

報告

いちむら しんご
一村 信吾 (理事)

昭和27年9月20日生

大阪大学大学院工学研究科博士課程満退 工学博士

略歴:

昭和57年4月 工業技術院電子技術総合研究所 入所
昭和60年10月 極限技術部宇宙環境技術研究室主任研究官
平成5年4月 極限技術部表面制御研究室長
平成10年1月 極限技術部総括主任研究官
平成13年4月 独立行政法人 産業技術総合研究所
企画本部総括企画主幹 (政策・渉外担当)

平成14年4月 極微プロファイル計測研究ラボ長
平成16年4月 計測フロンティア研究部門長
平成19年2月 独立行政法人 産業技術総合研究所理事 (現在に至る)



EVENT Calendar

2月10日現在
http://www.aist.go.jp/aist_j/event/event_main.html

2007年3月

●は、産総研内の事務局です。

期間	件名	開催地	問い合わせ先
3 March			
1～2日	界面ナノアーキテクトニクスワークショップ	つくば	029-861-4460●
2日	ヒューマンストレスシグナル研究センター セミナー	大阪	072-751-9991●
2日	デジタルヒューマン・ワークショップ2007	東京	03-3599-8509●
5日	脳内ケモカインの機能に関する講演会	つくば	029-861-8508●
6～7日	産総研中部センター研究発表会	名古屋	052-736-7064●
7～9日	新エネルギー技術シンポジウム	つくば	029-861-7879●
8日	次世代バイオナノ研究会	香川	087-869-3530●
8日	計算機言語談話会 (CLC)	大阪	06-4863-5022●
9日	シンポジウム「統合化地下構造データベースの構築に向けて」	つくば	029-861-3579●
13日	理研シンポジウム「先端ものづくり研究と分野連携のプラットフォーム構築に向けて」	埼玉	048-467-9570
15日	平成18年度研究プロジェクト報告会	大阪	06-4863-5022●
27～31日	国際惑星地球年参加普及講演会/日本堆積学会2007年つくば例会	つくば	029-861-3951●